



JA やつしろ理事  
山住 昭二さん

〇八代のトマトへの思い

「他県から視察があるが、昭和の初めに干拓された条件の中、日本一の生産量を担っていることによく驚かれる。祖父をはじめ最初に入植して以来、先人は様々な苦勞の連続だったと思う。それを乗り越えた忍耐があつてこそ現在の我が、球磨川の豊富な水が利用できたことも恩恵となつたと思う」と話されました。また、「JAの選果場に機械が導入されたことで、一番手間のかかる箱詰の作業がなくなり、トマト栽培の全体に余裕が生まれ、トマト栽培の全体に余裕が生まれた。週一日の休みも取れるようになった。今年から栽培面積を30アール増やす計画でいる。しかし、量だけに満足している訳ではない。味と品質をこれからも重視していきたい。農家は収穫量が少し落ちた場合でも、良い物が作れた時に救われた気持ちになるものだ」と言葉

〇就農と結婚・家庭

地元の八代農高を卒業して直ちに家の農業に従事されました。当時はイ草とスイカを栽培されていたそうですが、時代の変遷とともに作物も変えていき、現在は冬春トマトにしほり、1200アールを作付けされているそうです。

奥さんは隣の郡築町出身の方で、八代市立第七中学校の同級生だったそうです。昭和と郡築は同じ校区だということ

で、何が幸いするか解かりません。「現在、自分達夫婦、長男夫婦と雇用入4名の合計8人でやっている。上の孫が高校生になるのを機会に、妻と相談して長男(38才)に農業全般を任せるところにした」とのことです。後継者についても何の心配もないようです。



吉田さんご夫婦

義武さんは栖本町、麻知子さんは天草市有明町出身のご夫婦です。お二人とも実家は農家でしたが、当初は農業以外の仕事をされてきました。その後農業を始めて、今年で40年目になります。



JA直売天草とれたて市場  
生産者 吉田 義武さん  
麻知子さん

吉田さんご夫婦は、義武さんと麻知子さんの2人で農業をしています。米を10〜15アール、そして70アールの畑で、夏野菜と冬野菜を交互に生産しています。夏から秋にかけてはピーマンを主体に、キュウリ、ナスなどを出荷。冬から春にかけては、主にプロッコリーとカリフラワー、キャベツなどの野菜を出荷しています。現在出荷している野菜は、ピーマン「京まつり」、キュウリ「Vアーチ」、ナス「筑陽」の3種類。「ピーマンは病気にかなりやすいので、消毒する時もあります。なるべく農薬を使いたくないので必要最小限にしています」とのこと。吉田さん達のお孫さん達も「このピーマンなら食べられる」と言ってくれるそうです。

天候との戦い  
野菜は水の管理を怠ると、すぐに形が悪くなってしまいます。それを防ぐためには、日々の管理を徹底すること。義武さんは「野菜に自分を合わせる事がコツです。作物がすごしやすいようにしてやるのが私の役目。物言わない野菜でもよく見ていればわかります」と話されました。しかし丁寧な管理をしても、どうにもならないのは台風です。「以前ミニトマトも作っていたのですが、台風が来るたびに、ハウスの上げ下ろしが負担になり、やめました」とのことでした。

直売所について  
吉田さん達は、市場中心に出荷していましたが、直売所ができると同様に参加することに。今ではもう出荷して14年目のベテランです。「吉永店長のおかげでとても助かっています」という義武さん。「雨の時、搬入口前にテントを設置していただいたので、野菜が濡れずすみませんでした。おかげで安心して売ることができそうです」とのことでした。

これからの抱負

義武さんは今後の抱負として「二人とも健康に働いて、いい品物を作りたい。孫達が食べて美味しい物を作りたいです」と答えてくれました。麻知子さんも「家族の皆に励ましてもらっていることが力になっています。野菜を作ることが大好きなので、これからも皆さんに喜んでもらえるような美味しい野菜を作れたらいいなと思っています。」と話してくれました。

